

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500205		
法人名	有限会社 中田介護事業所		
事業所名	グループホームよもぎ鉢塚		
所在地	大阪府池田市鉢塚3-7-2		
自己評価作成日	令和2年1月27日	評価結果市町村受理日	令和2年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和2年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症や身体に重度な障害があっても自分らしく生活を送る事が出来る」を理念とし、利用者様の個々の個性や尊厳を大切するよう取り組んでいます。また自己選択、自己決定をする機会を多く持てるよう配慮し、主体的な生活が送れるよう配慮しています。職員の人員配置に関しては通常の基準よりも多く配置し利用者様との関りを少しでも多くとれる様配慮しています。また常勤の看護師の配置、内服薬の管理は連携している薬局が行うと共に往診医との連携も充実している為、医療面でもご安心頂いています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地にあり、温かみのある木調で統一され、明るく清潔感がある。開設4年目を迎え、職員全員で意見を出し合いながら理念の見直しを行い、更なるサービス向上に取り組んでいる。職員の定着がよく余裕のある人員配置ができており、常勤の看護師・調理専門職員の配置もある。日常的な外出・季節の外出、日課の体操、レクリエーション、家事参加、ボランティアの受け入れ、調理レク、外食行事等、利用者が日常生活の中で楽しめる機会作りに取り組んでいる。「よもぎ鉢塚便り」「家族報告書」を郵送し、家族との連携に努めている。往診医・常勤の看護師・薬局と連携を密にし、医療面での安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主に夕礼の中で、理念に沿った介護が行えているか振り返る機会を設け、その中で不適切な対応や発言が見られる場合は、出勤職員で話し合いを設け共有し、改善に努めている。1年に1回理念の見直しを行っている。	事業所独自の理念・基本方針を作成し、基本方針に地域密着型サービスの意義を盛り込んでいる。毎日フロア毎に夕礼を行い、管理者は両フロアの夕礼に参加し、振り返りや検討を行う際に理念に立ち戻り、理念の実践に取り組んでいる。開設4年目を迎え、職員全員で意見を出し合いながら理念の見直しを行い、更なるサービス向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会長に地域行事の情報を得て、地域で行われる菖蒲祭りやひな祭り、盆踊りなどに参加させて頂いている。また生け花、オカリナ演奏、大正琴、日本舞踊、バルーンアート、傾聴等のボランティアの受け入れ等も行っている。1年に1回地域の中学校の学生の福祉体験の受け入れ、地域の介護相談窓口を設置するなどして地域貢献に努めている。	スーパー・ドラッグストア・喫茶店・理容店など、日常生活の中で地域に出かける機会作りを行っている。自治会長等から情報を得て、菖蒲祭り・ひな祭り・盆踊りなど地域行事にも参加している。生け花・傾聴・コーラス・音楽レク・演奏・フラダンス・日本舞踊など、多種のボランティアの来訪もある。中学生の福祉体験を受け入れ、地域からの介護相談にも対応し、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口を設置している。最近ではご近所の方が介護サービスに関する相談を聞きに来られる事がある。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催。地域住民、池田市職員、自治会長、民生委員、家族様、利用者様代表の方に参加してもらい、サービス状況、事業者の取り組み、事故、ヒヤリハット、研修内容、身体拘束、虐待防止に対するの取り組み内容等の報告、利用者様・ご家族様の不安や不満等の聴き取りを行い、サービスの向上に努め、ご家族の方がいつでも閲覧できるように玄関に設置している。	利用者・家族・自治会長・民生委員・池田市職員を構成メンバーとして2ヶ月に1回開催している。会議では、資料をもとに、利用者状況・行事・活動・事故ヒヤリハット事例・研修・身体拘束適正化委員会等について報告し、事業所の取り組みについて理解を図っている。参加者と意見・情報交換を行い、利用者・家族からの要望・自治会長からの地域の情報等を、運営やサービスに活かせるように取り組んでいる。玄関に議事録を設置し公開している。	より多くの家族の参加が得られるように、また、知見者の参加が得られるように、引き続き働きかけを行うことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の場で運営状況の報告を行い、助言や指導を受けている。また、利用者様の対応に関する困難事例などがあれば、早期に報告し、改善、解決できる様努めている。	運営推進会議に市職員の参加があり、利用者の状況や事業所の取り組み等を伝え、情報や助言を受けている。3ヶ月に1回開催される池田市グループホーム連絡会に市職員の参加があり連携している。課題等があれば、市の窓口で早期に報告・相談し、助言を受けて解決に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関する指針の整備、身体拘束等の適正化の為の研修を3、4か月に1回実施。重要事項説明書、運営規定への明記、身体拘束等の適正化の為の対策を検討する委員会を3か月に1回運営推進会議の場等で実施、新入職員に対しても入職時に研修を行い、身体拘束防止、スピーチロック防止に対する理解を深めている。フロアは施錠はしているものの利用者様が出たいときは一緒に付き添う等していつでも外出できるようにしている。	法人共通の「身体拘束防止に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化委員会」を設け、概ね3ヶ月に1回開催している。委員会では、事業所内での事例をもとに適正化に向けた検討を行っている。身体拘束・虐待防止・認知症に関する研修を実施し、認知症についての理解を深めることで不適切な対応の防止に取り組んでいる。全職員が受講できるように、同じ内容で複数回実施し、レポート提出で理解状況を確認している。エレベーターや玄関は開錠に操作が必要であるが、利用者に出向の意向があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように支援している。	

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関しての施設内研修を行うとともに夕礼時に、日々の生活の中で職員の言動や行動が虐待に繋がる内容がないか等の話し合いを行う機会を設けている。スタッフに対しては管理者が定期的に面談を行い、業務中や介護を行う上でのストレスの有無を聴き取りし、ストレス緩和図ったり、利用者様への対応に関しての助言や指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業制度に関しての学ぶ機会は設けておらず、現在、活用している方もいない状況。実際に活用が必要な利用者様がいる場合は活動できる様支援させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、必ずケアマネと管理者の2名で事前訪問し、利用者様やご家族の不安や疑問、思っている事を聞き出している。また出来る事出来ない事を明確にし、十分に理解、安心してもらえる様働きかけている。契約内容を改定する際は、文書にて報告し、疑問や不安な事がある場合は口頭で説明を行い理解、納得して頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情窓口を明記すると共に、事業所内の玄関にも投書箱を設置している。その他にも運営推進会議の中で参加して下さっている利用者様、ご家族様に対して直接、意見や要望、不満、苦情等を聞き取る機会を設け、そこで出た内容に関しては、主に夕礼の中で共有し、改善できる様努め、サービスの質の向上に努めている。	利用者の意見・要望は日々のコミュニケーションの中で、家族の意見・要望は主に面会時に、把握に努めている。面会時には職員から近況報告を行い、毎月「よもぎ鉢塚便り」や3ヶ月に1回「家族報告書」を郵送し、意見・要望を表しやすいように努めている。把握した意見・要望は夕礼で共有し、迅速な対応に努めている。ケアプランの見直し時には、利用者・家族の希望を確認し、プランに反映している。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、事業所や外部者に意見を表す機会を設けている。玄関に意見箱を設置して	

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回から2回程、管理者が職員と話し、意見や提案を聞き出す機会を設け、また夕礼の中でも職員からの意見や要望は多くあり、取り入れている。	毎日フロアごとに夕礼を行い、利用者の状況やケア、業務等について、意見・情報交換を行っている。管理者は両フロアの夕礼に参加し、職員の意見・提案の把握に努めている。入浴体制の変更など、ケアや業務について職員の意見や提案を反映している。法人代表者・管理者が個人面談の機会を設け、個別に意見を聴く機会も設けている。法人の合同会議を毎月開催し、管理者が職員の意見や提案を法人に伝える機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与や処遇改善金の支給時に代表者がスタッフ一人ひとりと話し合う場を設け、意見や要望を聞くと共にねぎらいの言葉をかけている。賞与や処遇改善金に関しては実績や資格などスタッフの能力などに応じて個人差をつけ、モチベーションのアップにつなげている。手当てに関しては夜勤手当や早出・遅出手当を改善。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施やスタッフの能力や経験、立場等に応じた施設外研修にも参加してもらい、スキルアップと意欲向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回池田市内のグループホームの管理者、ケアマネ等が集まる会合(IGH)へ参加し、その中で他の事業所と問題点や悩み等を話し合い、意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時や改定等の際は、利用者様やご家族様等の不安や要望を尋ね、十分な説明を行い、理解を得ている。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	契約前の面談の中で、ご家族、利用者様の意向を十分に聴き取りし、ケアプランに反映させ実践している。また入所してすぐは特に関わりを多く持ち利用者様、ご家族様が不安がない様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族の意向を伺い、医療機関や市町村、他の関係機関と連携しながら、対応している。又、現状施設で可能な事、不可能な事、ご家族の協力が必要な事や、今後どのような支援が必要になって来るか等の話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物や利用者様の馴染みの場所に出掛けたり、日常生活を共にし、コミュニケーションを密に図る事で家族の様な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護や支援を行う上で出来る限り協力して頂き、スタッフと一緒に利用者様を支える関係作りに努めている。また3か月に1回、ご家族に対して、日常の生活状況、精神状態、介護面、医療面での対応の変更等を文書にて報告し、その内容に対してのご家族の意見も考慮した上で支援方法を決定している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方の面会もあり、居室で面談をされたり、一緒に外出する機会もある。また商店街やスーパー、ブティック、理容店、喫茶店等馴染みの場所を継続して利用できる様支援している。	生活歴についての情報は、フェイスシートやアセスメントシートに記入し、職員間で共有を図っている。家族の面会が多く、友人の来訪もあり、ゆっくり過ごせるように配慮し馴染みの関係継続を支援している。日常的な外出の機会に、買い物・喫茶・理美容などで馴染みの店舗を利用し、馴染みの場所との関係継続を支援している。手紙のやり取りも職員が支援している。	

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や関係性等を把握し、気の合う方同士で過ごして頂いている。又、スタッフが媒体になる事で普段関わりが少ない方と交流してもらったり、日中は1F、2Fの行き来を行う等して、新たな交流作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族や利用者様が気軽に相談等が出来る様に配慮している。又、事業所の行事がある際は連絡し、気軽に参加して頂く等、関係性を保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当スタッフが中心となり、日常会話の中で意向をくみ取る様にしている。又、意向をくみ取る事が困難な方は、ご家族や関係者から今までの生活歴や性格、思考などを情報収集し、利用者様を知る事から始め、本人の視点にたって支援方法を検討している。	入居時・ケアプラン見直し時に、利用者の思いや意向を聴いてアセスメントシートに記録し、介護計画に反映している。日々の会話で把握した内容は夕礼等で共有し、支援に反映している。担当職員を設け、個別の思いや意向を汲み取りやすいように取り組んでいる。把握が困難な利用者については、表情や反応を観察し、また、家族からの情報や意見を参考にして、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族、関係者から生活歴、馴染みの暮らし方を情報収集し、利用者様にとって一番心地良く過ごせるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務の中で一人一人のADL、残存機能、生活状況等を観察し、変わりがあれば主に夕礼などで話し合いを行ったり、記録に残す事で職員間で情報を共有し、把握に努めている。またそれを元にケアプランの作成にも役立たせている。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	契約時にフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて利用者様、ご家族の意向を確認し、それを元に介護計画を作成している。またスタッフが毎日介護計画の各援助内容の評価を行う事で何が出来ているか出来ていないかを分析し見直しを行う事でその時の状況に応じた介護計画を立案している。また往診医、歯科医、柔道整復師等の意見も聴き取りし、プランに活かしている。	入居時にフェイスシート・アセスメントシートをもとに課題分析し、ケアプランを作成している。「ケアプラン評価表」に毎日記録することにより、職員がプラン内容を理解し、プランに沿ったサービス提供を行い、実施状況を明確にし、特記事項も記録している。日々の様子は、「サービス提供記録簿」に記録している。それらをもとに介護支援専門員が毎月モニタリングを行い、定期的には6ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。見直し時には再アセスメントを行い、担当者会議を実施している。利用者・家族の希望、往診医・看護師・柔道整復師等関係者の意見も反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録簿に日々の状態や周辺症状に対するケアの方法、結果等を記入したり、夕礼、申し送りノート等を活用するなどして情報を共有し、日々実践と見直しを繰り返し行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が希望する事(行きたい場所、食べたい物、したい事)は極力対応できる様努めている。またご家族の負担軽減の為、買い物代行や金銭管理、ご家族が高齢で対応できない場合は受診の付き添いも行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所、医療機関、民生委員、自治会、地域包括支援センター等の地域資源を利用し、連携を図る事で本人が心身共に豊かな生活が送れる様努めている。又、様々な行事の計画、外部からボランティアの(生け花、傾聴、ギター演奏、コーラス、日本舞踊、大正琴の演奏等)受け入れなども行い充実した生活が行えるよう努めている。			

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方の心身面の状況に応じて利用者様とご家族様との話し合いの上、往診医を決定している。基本は月2回の内科の往診であるが、必要に応じて心療内科の往診も行っている。歯科の往診は月2回、マッサージは週1回から3回受けられる体制を整えている。また看護師にてバイタルの推移を毎日記録したものや日々の状況等の情報を提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。往診の結果や受診の結果は、医師に伝えた内容と医師からの指示内容を分け、どの職員が見ても分かりやすいように配慮している。また体調不良時などはすぐに往診医に報告を行い、迅速な対応が行えるように努めている。	契約時に利用者・家族に確認し、希望に沿った受診を支援している。月2回内科の往診、必要・希望に応じて、歯科・心療内科・マッサージの往診を受けられる体制がある。他科については、家族の同行を基本とし、看護師やかかりつけ医が情報提供している。看護師の常駐があり、日常の健康管理や緊急時対応を行っている。往診・受診の結果、体調の変化など、医療に関する内容は「看護記録」に記録し、情報共有している。居宅療養管理指導により、薬剤管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置し、些細な事でも、報告、連絡、相談を行い密に連携を図っている。必要時には、往診医に報告し、迅速な対応を心掛けている。又、看護職員が不在の時でも24時間のオンコール体制を整備し、いつでも適切な指示が受けられるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、定期的に病院へ訪問し、様子を確認すると共に病院関係者と情報交換、相談に努めている。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り・重度化した場合における対応に係る方針」を整備し、契約時に利用者様又は、ご家族様に指針の内容を説明し同意を得ている。また、実際に重度化や終末期となった場合は、再度、ご家族様、主治医、事業所職員の3者間で話し合いの場を設け、本人、ご家族様の意向を確認し、介護方針を決定している。	重度化・終末期に向けて事業所の方針を、「看取り・重度化した場合における対応に係る方針」に沿って、契約時に説明し文書で同意を得ている。「医療に対する希望」を用いて、契約時とその後は随時に、意向確認を行っている。主治医が終末期と判断した段階で、家族・主治医・管理者・看護師・介護支援専門員がカンファレンスを行い、家族の意向を確認している。看取り介護を希望された場合は、看取りのケアプランを作成し、家族の意向に沿った支援ができるように取り組んでいる。看取りの事例があった場合に、看護師が個別の事例に沿った研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時の研修を行い、実践できるように努めている。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。又、年2回防災訓練を行っている。(自主訓練と消防署立会いの訓練)地域との協力体制はまだ築けておらず今後の課題として取り組んでいきたいと考えている。	毎年、年2回、昼夜想定で、可能な利用者は参加し、通報・消火・避難訓練を実施している。年に1回は消防署の立ち合いがあり、指導・助言を受けて現状に即した避難訓練を実施している。参加できなかった職員には、訓練の記録の確認により周知を図っている。災害対応については、「災害時マニュアル」を作成し周知を図っている。水・米・冷凍食品・発電機・カセットコンロ・懐中電灯等の備蓄・備品を整備し、2階に保管している。	今後、地域の訓練に参加を予定しているとのことであり、地域との協力体制の構築を期待します。

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮や声掛け等、不適切な対応があれば、夕礼時に主に管理者が注意喚起を行い、意識の向上に努めている。個人情報に関わる書類は事務所に保管したり、写真の掲示や掲載に関しては契約時に確認を行っている。	言葉遣いや対応について気になる事例があれば、主に夕礼時に、管理者が注意喚起し意識向上に努めている。身体拘束適正化委員会の中でも事例検討している。個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる書庫に保管し、写真の掲示・掲載については、契約時に「入居に関しての確認事項」で意向を確認している。	個人情報保護と共に、介護の中でのプライバシー保護について、研修を実施することが望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様と関わりを多く持てるように努め、利用者様の思いや希望を聴き取るようにしている。また朝食時では食べたい物やトーストに塗る物を選んでもらったり、外食時に何を食べたいか等、出来る限り、ご自身で自己選択、自己決定する機会を多く持てるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	雑務は素早く行い、出来る限り利用者様と関わる機会を多く持てるように努めている。利用者様から声をかけられたら、すぐに手を止め傾聴受容する様、常日頃から職員への指導を行っている。また、利用者様のリズムを崩さない様、利用者様のあらゆる事に対してペースに合わすよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度、理容師が訪問し、好きな髪型に散髪してもらっている。入浴時、着替えの洋服をセットする時は、出来る限り、利用者様が着たい服をスタッフと一緒に選んでもらっている。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	日頃より職員と一緒にみそ汁作りや米とぎ を行ってもらったり、食後は洗いや、食器拭 き等を手伝って頂いている。1か月に1～2 回、利用者様が食べたい物を皆で話し合 い、調理レクを行い、野菜を切って頂いた り、炒め物や煮物等、一緒に調理を行っ ている。朝食にはパン食とごはんどちらが食 べたいか契約時に聴き取りし、好きな方を 召し上がって頂いている。スタッフ1名が毎 日検食を行い、味や固さ、見た目等の確認 をしたり、利用者様にも確認し不評な物が あれば、調理スタッフに伝達し、メニューの 変更などを行ってもらっている。年に2回程 は外食に行き、好きな物をご自身で選ん でもらう等、施設では普段食べられない物 を召し上がって頂いている。(昨年はデニ ーズとかごの屋)又、気の合う利用者様 同士、食事を楽しんで頂く為に、食事 席にも配慮している。	平日の昼食・夕食は、調理専門の職員が 手作りの食事を提供している。献立に季節 ・行事・節句を取り入れ工夫されている。 職員が検食し、利用者にも聴き、意見や 要望を伝えている。朝食は職員が提供し 、パンとご飯の選択メニューにしてい る。週末は配食と調理レクリエーション で食事を提供している。調理レクリエ ーションでは献立に利用者の希望を取 り入れ、調理にも参加できるように支 援している。利用者の状況に応じて、 ミキサー食やソフト食も提供している。 外食行事の機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者様の嚥下状態に合わせて、普通 食、刻み食、極刻み食、ムース食など を提供している。また食事量の少ない 方に対しては、主治医と相談の上の 栄養補助食品を処方してもらったり、 ご家族と相談し、本人嗜好の甘い物 等の食べ物を購入させて頂いて栄養 状態を維持できる様努めている。水 分に関しては、定期的に提供する時 間を決め、またまめに喉が渇いてい ないか聞くなどして水分の確保に努 めている。夏場は、ポカリやリンゴ ジュースなどを提供し、普段の季節 と比べて多めに水分を摂取が出来 るよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本 人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行っ ている。介助の必要な方は、職員 が仕上げを行っている。義歯を使 用している方は、夜間に預り、義 歯洗浄剤を使用し消毒している。希 望者には、月に2回訪問歯科があ り、口腔ケアを行っている。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、一人一人の排泄パターン、尿量、便量等を把握し、必要に応じて排泄形態の変更を随時行っている。出来る限り、トイレでの排泄を心掛けている。	排泄表に記録して、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄・排泄の自立に向けて支援している。利用者の変化に応じて、介助方法や排泄用品について夕礼で検討し、経過も夕礼で共有しながら、利用者の現状に適した排泄支援に取り組んでいる。トイレの扉の開閉や、声かけ・伝達時の周囲への配慮など、プライバシーや羞恥心への配慮について職員の周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より体操や散歩、十分な水分摂取を行うと共に必要に応じて主治医と相談し、下剤や緩下剤を処方してもらう等、排便状態をコントロールし便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行っている。利用者様の状態に合わせてリフト浴か個浴を使用している。頻繁ではないが、入浴を楽しんで頂けるよう、ゆず湯やバスクリンを使用している。利用者様によっては、異性介助を拒否される方もおられる為、その際は同姓介助を行っている。	1階にリフト浴、2階に一般浴の設備があり、利用者の状況に応じて使用し、安全に浴槽での入浴ができるよう支援している。週2回の入浴を基本とし、利用者の体調や希望に応じた入浴支援に努めている。異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応し、入浴を嫌がる利用者には声かけやタイミングを工夫している。ゆず湯や入浴剤で、入浴を楽しむ機会も設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活習慣を把握し、利用者様一人ひとりのリズムに応じた睡眠がとれる様配慮している。十分な睡眠がとれない場合はその方の現在の生活状況やストレスの有無等をアセスメントし、その原因を探求するよう努めている。昼夜逆転傾向にある方は、介護で改善出来る事は実践し、他の方法がなくなった場合のみ、主治医と相談し、眠剤が処方される場合もある。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は看護師が管理している。利用者様一人ひとり内服薬の一覧表をファイルに閉じ、また変更時は夕礼の際にスタッフに伝達し、把握出来る様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の利用者様の生活歴、ADLを把握した上で役割を決め実施している。施設近くに公園やスーパー等があるので、気分転換に散歩や買い物に行く等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より散歩や買い物などで外出する機会を多く持てるよう配慮している。また、梅、桜、菖蒲、紅葉などの季節感を感じれる外出レクを行ったり、年に2回程外出に出かけるレクも行っている。	利用者の希望に沿って、散歩やスーパー・ドラッグストアへの買い物など、日常的に地域に出かける機会を多く持てるように取り組んでいる。菖蒲祭り・ひな祭り・盆踊りなど地域行事にも出かけている。初詣、桜・梅・菖蒲の鑑賞、紅葉狩り等、季節感のある外出や、外食を楽しむ外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご家族から数万円程の預り金を預かり、利用者様が必要な時に一緒に買い物へ出かけ買い物を行っている。利用者様によっては、ご家族と相談の上、ご自身で管理されている利用者様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば、ご家族の同意の上電話をしたり文通を行っている。		

グループホームよもぎ鉢塚

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室以外にくつろげる場所としてフロアにはソファを設置し、共有フロアにキッチンがあり、料理をする音や匂いを感じてもらおう等自宅にいてるような雰囲気作りを行っている。自室には馴染みの家具や写真等を持参して頂き、利用者にとって居心地の良い空間で生活出来る様働きかけている。	共用空間は温かみのある木調で、明るくゆったりとした広さがある。利用者と一緒に制作した飾り・写真・書道等を飾り、季節感が感じられる。調理スペースがあり、家庭的な雰囲気も感じられる。テーブル席・ソファを配置し、ウッドデッキにはベンチやブランターもあり、思い思の場所でくつろげる環境がある。体操を日課とし、脳トレ・カラオケ・テーブルテニス等のレクリエーションを楽しむ場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアにはテーブルを3つ設置しており、利用者様の関係性を把握し、日々席替えやテーブルの配置換えなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みの家具や写真等を持参して頂き、利用者にとって自宅で過ごしているような居心地の良い空間で生活出来る様になっている。利用者様の状態によって、普通の介護用ベッドか低床ベッドを使用してもらっている。	各居室に、クローゼット・ベッド・チェストが設置されている。テレビ・ワゴン・棚・ぬいぐるみ・家族の写真など、使い慣れたものや好みものの持ち込みを勧め、居心地よく落ち着いて過ごせるように支援している。居室担当職員を設け、衣替えや物品の確認などを行っている。動線の確保、介護ベッドや低床ベッドの使用等、安全面にも留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーで各箇所に手すりなどを設置している。また廊下やフロア等の歩行スペースで、事故に繋がるようなリスクとなるものを排除している。		